

## 日本産ヒゲブトチビシテムシ類要説 (IV)

保科英人

〒 910-8507 福井県福井市文京 3-9-1 福井大学教育学部

## Notes on the Subfamily Coloninae of Japan (IV)

Hidetoshi HOSHINA

前号の (III) (保科, 2016c) で予告した通り, 日本産ヒゲブトチビシテムシ *Colon* 属の一種を別亜属へ移した. そして, この別亜属は日本新記録亜属となるので, 必然的に亜属への検索表を作り直す必要が生じた.

亜属の変更を行った種は本稿 (IV) で扱うハンベヒゲブトチビシテムシ *Colon hanbei* Hoshina, 2012 である. 保科 (2016b) の種リストでは本種を *Myloechus* 亜属所属の種としていたが, その後の筆者の再検討で *Eurycolon* 亜属への変更が妥当と判断した (Hoshina, 2016). 一部改変した日本産ヒゲブトチビシテムシ亜科の属および亜属への改定版検索表は以下ようになる.

日本産ヒゲブトチビシテムシ亜科の属  
および亜属への検索表 (改訂版)

(1) 触角第 11 節は明らかに縦長 (図 15). 頸部

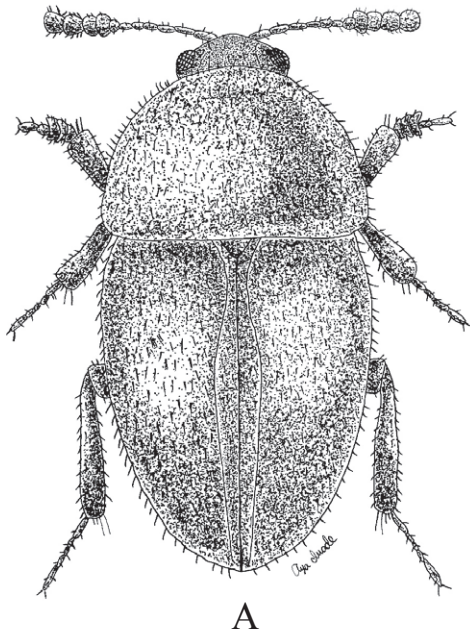
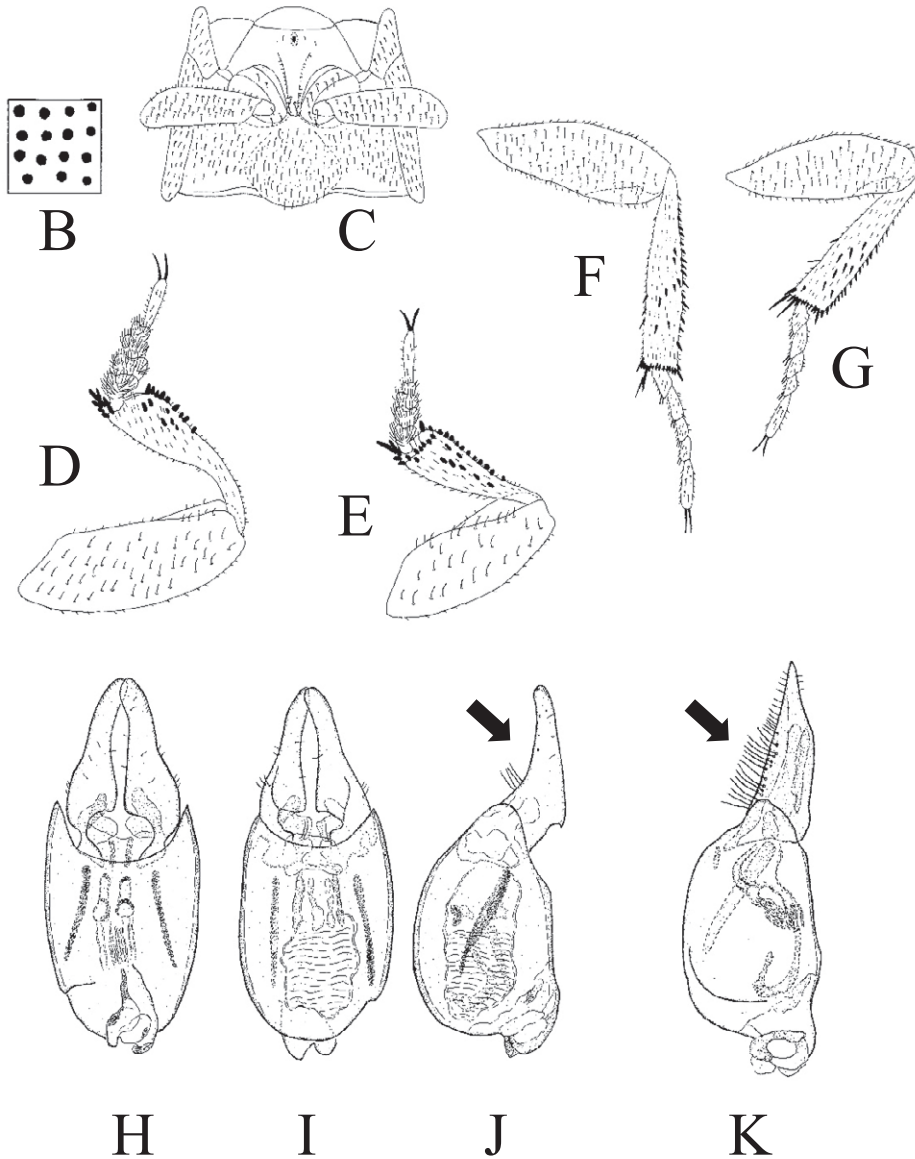


図 A. ハンベヒゲブトチビシテムシ *Colon (Eurycolon) hanbei* Hoshina, Hoshina (2012) より.

- の表面は滑らか. 前附節第1~3節は雌雄共に肥大化 (図 18). 後胸腹板と後胸前側板の毛の生え際の点刻 (setal socket punctures) は非常に大きい (図5). 雄交尾器の左右の側片の先端近くは互いに接し (図9-10), 側方向から見てほぼ直角に折れ曲がる (図11). 雌産卵管のstylusは極端に小さくなる (図22). 分布は八重山諸島のみ. ....*Colonellus* ニセヒゲブトチビシテムシ属 (日本には *Colonellus* 亜属のみが記録される)
- (-) 触角第 11 節は横長か縦横同長 (図16-17). 頸部は明瞭なmicrosculpturesを持つ. 前附節第1~3節は雄が雌よりも大きく肥大化するか, 雌雄共に単純な棒状. 後胸腹板と後胸前側板の毛の生え際の点刻 (setal socket punctures) は小さい (図6-8). 雄交尾器の側片は太い (図12-14). 雌産卵管のstylusは円筒型で, ニセヒゲブトチビシテムシ属ほど極端に小さくはない (図23). 分布は北海道から琉球列島までほぼ日本全土. ....*Colon* ヒゲブトチビシテムシ属 (亜属への検索表は2へ)
- (2) 触角は先端3節が球捍部を構成する. 第8節は第9節よりも明らかに小さくなる (図16) .... *Colon* 属 *Tricolon* 亜属 (日本産は1種のみ)
- (-) 触角は先端4節が球捍部を構成する. 第8節は第9節とおおよそ同じ大きさ (図17). ....3
- (3) 前附節は全節が雌雄とも単純な棒状 (図19). .... *Colon* 属 *Colon* 亜属
- (-) 雄前附節は第1~3節が肥大化する (図20). 雌前附節の第1~3節は雄と比べて弱く広がる程度ではあるが, *Colon* 亜属のように単純な棒状にはならない (図21) (ただし, 台湾産種 *C. (M.) chenggongi* は例外で雄前附節は同亜属他種の雌の附節程度にしか広がらない). ....4
- (4) 脚に出る顕著な性的二型はほぼ前脛節に限られ, 後脚は雌雄ほぼ同型 (図F, G). 雄交尾器側片は腹側, 背側とも極端に疎で短い毛しか持たない (図H, I, J)



図B-J. ハンベエヒゲトチビシデムシ *Colon (Eurycolon) hanbei* Hoshina. K. ヤマトヒゲトチビシデムシ *C. (Myloechus) japonicum* Hisamatsu. B, 前胸背板の点刻; C, 中胸腹板および後胸腹板; D, 雄前脚; E, 雌前脚; F, 雄後脚; G, 雌後脚; H, I, J, 雄交尾器 (それぞれ腹側, 背側, 横側); K, 雄交尾器 (横側). 図B-JはHoshina (2012), 図KはHoshina (2009) より.

- (矢印) . . . . . *Colon*属 *Eurycolon*亜属  
 (-) ほとんどの場合, 後脚に何等かの性的二型が出る (しかし, *C. (Myloechus) shini* のように種内の形態変異が激しい種の場合, 稀に雌雄ほぼ同型の後脚となる場合がある). 雄交尾器側片は腹側, 背側のどちらか, ないしは両方に高密度ないしは程々の数の毛を持つ (図K)  
 (矢印) . . . . . *Colon*属 *Myloechus*亜属

※上記検索表のアラビア数字の番号を持つ図は本連載 (II) (保科, 2016b) 内の図に対応している. 本稿ヒゲトチビシデムシ類要説 (IV) 掲載の図ではないことに注意されたい. また, 検索表 (1)~(3) までは新旧全く同じで, (4) 以降が本稿 (IV) で新たに追加した箇所となる.

### Colon 属 *Eurycolon* 亜属

上述の通り Hoshina (2016) は *Myloechus* 亜属として記載されたハンベエヒゲブトチビシデムシ *Colon hanbei* Hoshina, 2012 を *Eurycolon* Ganglbauer, 1899 亜属へ移した。これにより, *Eurycolon* 亜属が日本から初記録されたことになる。

*Eurycolon* 亜属は旧北区の7種(日本のハンベエヒゲブトチビシデムシ含む)、北米大陸の2種、世界で計9種のみが記録されている小亜属である(Peck & Stephan, 1996; Newton, 1998; Perreau, 2015; Hoshina, 2016)。Colon 属内の最大亜属の *Myloechus* 亜属との区別方法は上記検索表に述べた通りである。

ただ、本稿の検索表を引いていただければわかるが、*Eurycolon* 亜属と *Myloechus* 亜属の間の形態的差異は多分に量的なものにとどまる。ハンベエヒゲブトチビシデムシの全形図(図A)と、本連載(I)(保科, 2016a)に写真掲載したヤマトヒゲブトチビシデムシ *C. (Myloechus) japonicum* Hisamatsu, 1970 やトゲヒゲブトチビシデムシ *C. (M.) itoi* Hisamatsu, 1985 と比較すると、背面側から虫全体を眺めても殆ど区別がつかないほど似ていることは明らかだ。

*Eurycolon* 亜属は、ハンベエヒゲブトチビシデムシが Hoshina (2012) で記載される前は、Palm (1941) が欧州より記載した *Colon (Eurycolon) brundini* と *C. (E.) pseudolatum* の2種が最後の新種であった。言い換えると、70年以上も未知の種が発見されなかったグループと言うことになる(なお、Palm (1941) の時点では両種とも *Curvimanon* 亜属とされていた。また、*C. (E.) pseudolatum* は現在モンゴルや極東ロシアからも記録がある(Perreau, 2015))。

つまり、*Eurycolon* 亜属は半世紀にわたって新発見が付け加えられなかった、言わば存在を半ば忘れられていた亜属である。それだけに亜属の定義は20世紀前半時の不明瞭な点が今なお残されたままだ。例えば、Peck & Stephan (1996) が示した北米産ヒゲブトチビシデムシ *Colon* 属の亜属への検索表の中で示した *Eurycolon* 亜属と *Myloechus* 亜属の間の違いは、Reitter (1909) や Peez (1971) をほぼ踏襲しただけとなっている。要するに、*Eurycolon* 亜属と *Myloechus* 亜属は厳密に区別できるか、また区別すべきかに筆者には一抹の不安が残る。

*Eurycolon* 亜属所属の種はハンベエヒゲブトチビシデムシを除き、いずれも古い時代に記載されたことから、種の同定にも不安を残す。よって、*Eurycolon* 亜属の全9種が全て独立した種かどうかの検証(例えば、極東ロシアの *C. (E.) pseudolatum* とハンベエヒゲブトチビシデムシは真に別種か否

か等)や亜属の形態学的再定義など、*Eurycolon* 亜属は再検討の必要を感じさせるグループであることは確かだ。

Hoshina (2016) はあくまで現時点での知見に基づいた分類学的措置にすぎないことを予めお断りしておく。

### ハンベエヒゲブトチビシデムシ *Colon (Eurycolon) hanbei* Hoshina, 2012 (図A-J)

日本産 *Eurycolon* 亜属唯一の種であるハンベエヒゲブトチビシデムシは体長3mm前後で、背面は暗褐色か暗赤褐色。前胸背板は上翅とほぼ同幅(図A)、前胸背板の形は饅頭形で性的二型はなく、それぞれの点刻はつながらず独立している(図B)。前脚に顕著な性的二型があり、雄前脛節は基部約1/3で内側に湾曲し、先端に向かって急激に広がる(図C)。一方、雌前脛節は基部から先端方向へおおよそ単純かつ緩やかに太くなる(図D)。雄前脚附節は雌のそれと比較するとより顕著に肥大する(図D, E)。しかし、雌前脚附節も *Myloechus* 亜属所属の種と比べれば幅が広めである(ただし、ハチスカヒゲブトチビシデムシ *Colon (Myloechus) hachisukai* Hoshina, 2009 は例外で、雌前脚附節はそこそこ肥大している。詳細は次回以降の本連載参照)。後脚には目立った性的二型がなく、雌雄の後脛節、後脛節いずれも単純で特に際立った特徴はない(図F, G)。

後胸腹板中央五角形部分の点刻は小さくて密度は程々(図C)。雄交尾器の側片の毛は極端に少なく、また短いことは検索表で述べた通り(図H-J)。その他、腹側および背側から見た側片は基部約1/4付近で内側へ大きく湾曲するなど複雑な形をしている(図HおよびI)。

分布地：本州(岐阜県)

雑記。本種は Hoshina (2012) で新種として記載された。学名および和名は現在の岐阜県出身で戦国時代の名軍師の竹中半兵衛重治(1544-1579)に由来する。今のところ、本会会員の豊島健太郎氏が採集された飛騨高山産4個体以外の本種の記録はない。

本連載の次回(V)より、*Colon* 属最大の *Myloechus* 亜属の解説に入る。

### ※訂正報告

本連載(II)(保科, 2016b)のp.4の図9-14の付図説明の2行目。「欧州産 *Colon (Myloechus)*

*appendiculatum* (Sahlberg, 1834)の直前に、「12-14」との数字が抜け落ちている。追加訂正をお願いしたい。

#### 引用文献

- Hoshina, H., 2009. A taxonomic revision of the subfamily Coloninae (Coleoptera: Leiodidae) from Japan and Taiwan. *Tijdschrift voor Entomologie*, 152: 237-286.
- Hoshina, H., 2012. Taxonomic notes on the subfamily Coloninae (Coleoptera, Leiodidae) from Honshu, Japan. *Elytra, New Series*, 2: 69-77.
- Hoshina, H., 2016. Taxonomic short report on the genus *Colon* (Coleoptera, Leiodidae, Coloninae). *Elytra, New Series*, 6: 312.
- 保科英人, 2016a. 日本産ヒゲブトチビシテムシ類要説 (I). さやばね, ニューシリーズ, (21): 1-7.
- 保科英人, 2016b. 日本産ヒゲブトチビシテムシ類要説 (II). さやばね, ニューシリーズ, (22): 1-7.
- 保科英人, 2016c. 日本産ヒゲブトチビシテムシ類要説 (III). さやばね, ニューシリーズ, (23): 1-5.
- Newton, A. F., Jr., 1998. Phylogenetic problems, current classification and generic catalogue of world Leiodidae

- (including Cholevidae). p. 41-178. In: Giachino, P. M. & S. B. Peck (eds.). *Phylogeny and Evolution of Subterranean and Endogean Cholevidae (=Leiodidae Cholevinae)*. Proceedings of a Symposium (30 August, 1996, Florence, Italy), XX International Congress of Entomology. *Atti del Museo Regionale di Scienze Naturali, Torino*, 1998. 295 pp.
- Palm, T., 1941. Zwei neue *Colon*-Arten aus Schwedisch-Lapland nebst einer Bestimmungstabelle der aus Nord-europa bisher bekannt gewordenen Arten der Untergattung *Curvimanon* (Col. Silphidae). *Entomologisk Tidskrift*, 62: 158-165.
- Peck, S. B. & K. Stephan, 1996. A revision of the genus *Colon* Herbst (Coleoptera; Leiodidae; Coloninae) of North America. *The Canadian Entomologist*, 128: 667-741.
- Peez, A., von, 1971. Familien: Colonidae, Leiodidae. p. 237-265. In Freude, H. *et al.* (eds.). *Die Käfer Mitteleuropas*. vol. 3. 365 pp., Goecke & Evers, Krefeld.
- Perreau, M., 2015. Family Leiodidae. p. 180-291. In: Löbl, I. & D. Löbl (eds.). *Catalogue of Palaearctic Coleoptera. Hydrophiloidea-Staphylininoidea*. Revised and updated edition. vol. 2/1. 900 pp. Brill, Leiden, Boston.
- Reitter, E., 1909. *Fauna Germanica. Die Käfer des Deutschen Reiches*. vol. 2. 392 pp. K. G. Lutz' Verlag, Stuttgart.

(2016年11月1日受領, 2016年12月21日受理)

#### 【短報】愛媛県東温市でコガタノゲンゴロウを確認

コガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus lateralis* (Fabricius) は、愛媛県では愛媛県県民環境部環境局自然保護課 (2014) において絶滅危惧 I 類 (CR+EN) とされ、愛媛県 (2008) によって特定希少野生動物種に指定され生息地を含めた保全対策が行われている。しかし本種は近年になり西日本を中心に本種の分布拡大が報告されており (下野, 2015), 愛媛県においても今治市, 松山市, 西予市などでも確認されている (愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 2014)。

愛媛県東温市立南吉井小学校の岡本晃虎君と渡部悠都君が 2015 年 9 月 16 日に南吉井小学校の校庭に落ちている 1 個体を拾ったとのことで連絡をもらい, 写真 (図 1) にて本種であることを確認した。東温市では初めての記録になると思われる分布拡大の状況を示す 1 例になるので記録しておく。該当個体は写真撮影後に小学校近くのため池に逃がし

たとのことである。

末筆ながら, 本記録について報告の許可を頂いた岡本晃虎君と渡部悠都君, およびそのご家族, 本種の生息状況についてご教示頂いた久松定智博士にお礼申し上げる。

#### 引用文献

- 愛媛県, 2008. 愛媛県野生動物植物の多様性の保全に関する条例 (平成 20 年 愛媛県条例第 15 号) (2016 年 9 月 23 日閲覧 [http://www.pref.ehime.jp/h15800/1190754\\_1934.html](http://www.pref.ehime.jp/h15800/1190754_1934.html))
- 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 2014. 愛媛県レッドデータブック 2014-愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物- (2016 年 9 月 23 日閲覧 [http://www.pref.ehime.jp/reddatabook2014/detail/05\\_03\\_001950\\_1.html](http://www.pref.ehime.jp/reddatabook2014/detail/05_03_001950_1.html))
- 下野誠之, 2015. 山口県における近年のコガタノゲンゴロウの動向について. 山口のむし, (14): 84-90.

(吉富博之 愛媛大学ミュージアム)



図1. 東温市で確認されたコガタノゲンゴロウ。